

令和3年8月 定例記者会見(報告)

1 日 時 令和3年8月 25 日(水)13時～14時

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>朝日新聞、山形新聞、読売新聞、河北新報、米澤新聞、毎日新聞、
置賜日報、NHK、YBC、YTS

<市>市長、秘書広報課長

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) 東京五輪が終わりました。米沢市がホストタウンとなった香港との交流はコロナの影響で思うようにいかなかった部分もありますが、振り返っての思いと、これからの香港との交流のあり方についての計画と考えを教えてください。
- (2) コロナが再拡大する中で、市が今月開始する予定だった宿泊事業者緊急支援事業「行こうよ米沢！泊まって得旅キャンペーン」が開始できていません。来月には上杉まつりも予定していますが、観光関連事業者の現状の認識と、支援策について教えてください。
- (3) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和3年度8月の定例記者会見を始めさせていただきます。初めに市長から発言がございます。

○市長

今月の定例記者会見のご質問は2件でした。

1点目は「東京五輪が終わりました。米沢市がホストタウンとなった香港との交流はコロナの影響で思うようにいかなかった部分もありますが、振り返っての思いと、これからの香港との交流のあり方についての計画と考えを教えてください」という質問でございます。

まずは、香港フェンシング協会とのホストタウン事業の経過をお話しします。平成 29 年3月に山形県からフェンシング競技のホストタウン推進を打診されました。米沢市は「べにばな国体」のフェンシング競技会場でもあり、県内でもフェンシングが盛んな地域でもあります。そういったことを踏まえて、関係団体と協議した結果、香港を相手国・地域とするホストタウンの準備に入りました。

平成29年6月に香港で開催されたアジア選手権会場で、香港フェンシング協会ヤンインシン会長と会談し、ホストタウンについて交渉を行いました。

平成30年2月には、日本フェンシング協会の協力を仰ぎ、香港フェンシング協会ジュニアチーム24名を米沢にお迎えし、第1回バウヒニア・フェンシングワールドカップを開催しました。そして、平成30年10月に香港で「香港フェンシング協会と米沢市とのホストタウン交流に係る覚書」の締結を行いました。

令和元年5月に米沢市の中学生、高校生のフェンシングチームが香港での交流試合に参加しました。

令和2年2月に第3回バウヒニア・フェンシングワールドカップを開催し、ヤン会長をはじめ香港フェンシング協会選手団20名をお迎えし、交流事業を行いました。

この時期以降は、世界的な新型コロナウイルス感染症の影響により直接の交流が困難となり、東京オリンピックでの事前交流・事後交流はできませんでした。大変残念ではありましたが、ホストタウンを契機とした香港フェンシング協会との絆は結ばれております。今後のフェンシングにおける交流は担当部署で知恵を絞り、交流事業を継続するよう取り組んでまいります。

また、ホストタウンは選手の皆様との事前交流・事後交流が目的の1つではありますが、国の方針では経済的な交流も含めて取り組むことができるならば、経済面でも交流をするように、という方針も内閣府から出ております。我々としても、香港との経済交流をどのようにできるか取り組んできました。記者の皆様にも正式に発表する段階ではありませんが、米沢市の物産を香港に送る、教育旅行として香港からお迎えするなど、今後協議をして実現したいと思っております。

香港との経済的な交流は、山形県香港経済交流協会がごぞいます。米沢市も加盟しておりますから、今後とも協会との連携を図りながら、香港との経済的な交流をできればと思っております。

また、山形の JETRO 事務所、香港の JETRO 事務所とも連携を取っております。JETRO の協力もいただきながら、今後経済交流が実現できるように取り組んでいきたいと思っております。

オリンピックは新型コロナウイルス感染症の影響が残念でしたが、香港チームの^{チョンカロン}張家朗選手がフルーレ男子個人で金メダルを獲得しました。日本も男子エペ団体で金メダルを取りました。米沢市の子どもたちや、一般の方々を含めてフェンシングが盛んにな

れば良いと思います。

2点目は「コロナが再拡大する中で、市が今月開始する予定だった宿泊事業者緊急支援事業『行こうよ米沢！泊まって得旅キャンペーン』が開始できていません。来月には上杉まつりも予定していますが、観光関連事業者の現状の認識と、支援策について教えてください」という質問でした。

新型コロナウイルス感染症が拡大して以降、宿泊事業者に対して支援をしてきました。2月には、米沢市独自で「泊まって支え合いキャンペーン」を展開し、一定の支援効果を出すことができたと思っております。「GoTo トラベルキャンペーン」の再始動時期が見えない中で、市の事業も6月で終了しました。こういった中で、県外客、特に近県から7月以降の予約が入らない厳しい状況になっております。国の「GoTo トラベルキャンペーン」が停止している中で、宿泊キャンペーンを実施することで市内の経済回復を図る準備をしておりましたが、7月下旬から全国的に新型コロナウイルス感染症が再拡大したことを受けて、米沢八湯会や米沢市旅館ホテル組合、米沢市内エージェンツ観光共同体の各代表と協議を行ったうえで、キャンペーンを停止しました。

今後の対応ですが、新型コロナウイルス感染症の状況が日々変化しており、現段階では先行きが見通せない状況であることから、観光関連団体と協議をしながら、状況の変化に対応したさらなる支援策を引き続き検討したいと思っております。

改めて、業界ごとに感染防止策を講じたうえで、感染状況が落ち着いた段階でキャンペーンを再開できるように準備をしたいと考えております。市内や置賜地域をはじめ、比較的移動距離が短い地域から始めるなど、対応を検討したいと思っております。

以上であります。

○秘書広報課長

市長からの発言は以上となります。

これ以降の進行につきましては、幹事社にお渡しいたしますので、よろしく願いいたします。

○記者

香港の件で、これからも香港との交流は様々な面でつなげていくということによろしいでしょうか。

○市長

はい。フェンシング競技においても、今後どういったことができるのか。バウヒニア・フェンシングワールドカップについても、香港選手の皆さんがお越しになれないと意味がないわけです。そういった国際的な大会も含めて、香港のジュニアチームも受け入れや、中学生・高校生の交流もできればと、色々と検討していきたいと思っております。

○記者

今回、残念ながら米沢市出身の選手はオリンピックにはいなかったわけですが、今後の

米沢市のスポーツ振興についてはどうお考えですか。

○市長

コロナ禍において、オリンピックを中止するか開催するか賛否両論あったわけですが、日本選手の活躍もあって、スポーツに携わっていない人も含めて感動を覚えたと思います。特に、10代の若い選手が活躍した競技も多くありました。そういったものに影響を受けながら、今後はオリンピックを目指して頑張っていきたいなど、希望や夢を持って競技に取り組んでいただきたいと思います。今回は米沢市から選手が出ませんでした。今後は米沢市からもオリンピック選手が出られるように取り組んでいかなければいけないかと思っております。いずれにしても、スポーツ熱は高まったと思います。

○記者

来月の上杉まつりは開催する予定ですか。

○市長

新型コロナ感染が再拡大している状況の中ですが、今のところは開催する予定で取り組んできております。ただし、山形県の警戒レベルが全域で4に上がったこともあり、非常に厳しい状況だと思っております。明日、四季のまつり正副会長会議を開き、そこで今後の対応を協議します。

○記者

正副会長会議で結論を出すということでしょうか。

○市長

はい。最終判断は上杉まつりの1週間前に行うとしておりましたが、正副会長会議で判断したいと思っております。

○記者

「行こうよ米沢！泊まって得旅キャンペーン」が実施できていないことについて、関係各所のどういった協議を経て、実施しないという結論になったのでしょうか。

○市長

細かい点までは聞き及んでいませんが、新型コロナが再拡大してきております。米沢市も感染者が増えていますが、それ以前から米沢市周辺、県内で再拡大してございました。そういった状況から、実施するのが厳しいという判断に至ったと思います。

○記者

状況を見て再開するということですが、今の時点では、何月ごろから再開するという見通しは立っていないという認識でいいのでしょうか。

○市長

はい。具体的にいつごろから再開できるかということはありません。再開するとしても、置賜地域や市民の皆様に限って再開すると思っております。市内および周辺部でも再拡大しておりますので、収束の見通しが立たないと再開は難しいと思っております。

○記者

観光業界をはじめ、飲食業界など市内経済が厳しい状況だと思います。今、何が支援策として一番大切だと思いますか。

○市長

安全に利用できる環境であるかどうか、ということがお店にとって一番重要かと思っておりますが、具体的にどういった支援が必要で、効果があるかということはまだ詰めておりません。実態を把握し、担当課と話をしながら、効果のある手法を検討したいと思います。

○記者

紅花まつりを振り返って、直江石堤で花火を上げる計画があるそうですが、これは市長の主導なのでしょうか。また、紅花まつりの総括をお願いします。

○市長

花火については、話を聞いておりませんでした。ただ、紅花まつりを夏のイベントとして四季のまつりに組み入れたいと思っております。栽培を希望している地域もあります。また、ミナミハラアートウォークがあったわけですが、福王寺先生から画材として紅花と漆を栽培したいという話もいただいております。そういったことも含め、世界農業遺産に認定されてから動き出すのではなく、世界農業遺産に認定されることを信じて、紅花の加工などは市民の皆様にご理解をいただきながら、米沢の新たなイベントとして拡大していくように取り組んでいきたいと思っております。今回の紅花まつりは、地元の方や学生、紅花関連のお仕事をされている皆様のご協力をいただきながら開催できました。多くの皆様に感謝を申し上げます。

○記者

原方刺し子で大型タペストリーを作成中と耳にしました。市長からも思い入れがあるとのことですが、そのあたりのお話をお願いいたします。

○市長

紅花が世界農業遺産に認定されてから動き出すのでは遅いと思います。紅花染めなどの着物関係においては取組が進んでおります。刺し子は、紅花で染めた糸を使ってタペストリーのような大型の、記念になるようなものを作成できないかとお話をしたことがあります。今、学生などに協力いただき、大きなものを作っているのと伺っています。農業遺産に認定された際は、お祝いとして掲示したいとお願いをしました。

○記者

完成した後は、市で展示をしたいということでしょうか。

○市長

細かいところまでは話していませんが、農業遺産に認定された場合は、市が一番にお祝いをしなければいけないと思っております。

○記者

まだ時期は分かりませんが、衆議院選挙があると思います。2人の候補が出てきていますが、市長はどういった立場で応援する予定でしょうか。

○市長

立場ははっきりと決まっておりませんが、これまで市政運営、市政事業にお力添えをいただいていたのは現職でございます。どのような要請があるかは分かりませんが、要請があった場合は対応しなければいけないと思っております。

○記者

中止にならないければ、今夜は鈴木議員の集会でしたが、どんなことを話そうと思っておりましたか。

○市長

新型コロナウイルス感染症を一日も早く収束させるために、ワクチンの供給量を国が確保しながら、地方自治体に提供してほしい、ということが一番大きいです。

また、コロナ収束後の話ですが、米沢市は SDGs未来都市やゼロカーボンシティに選定されました。デジタル化も進めております。国と連携を取りながら、米沢市が目指している新たなまちづくりにご支援、ご協力をいただきたい、ということです。

○秘書広報課長

これをもちまして令和3年度8月の定例記者会見を終了させていただきます。